

旭川の官民連携 ベトナム展開

狙いは
新興国

旭川を国際都市へ。野菜洗浄機などを手がけるエフ・イー（北海道旭川市、佐々木通彦社長、0166・36・4501）は、旭川の官民と連携してベトナムへの事業展開を進めている。5月に谷口農場（同市）、表鉄工所（同市）、グリーンテックス（同市）とともに、ベトナム・クアンニン省の企業4社と連携に向けた覚書を交わした。エフ・イーなど旭川4社と建設コンサルタントの長大（東京都中央区）は、ベトナム企業4社とクアンニン省の農業発展に取り組む「農業コンソーシアム」の設立を目指す。旭川市と旭川商工会議所はベトナムの同省と企業支援の覚書を交わした。ベトナムでも食の安心・安全は求

農業
コン
ソー
シアム

エフ・イー

農業コンソーシアム設立に向けた覚書
締結式（旭川商工会議所提供）



められており、野菜などを洗って流通するにあたり、物流や冷蔵設備などを整備したフードバリューチェーンの構築が重要となる。佐々木社長は「企業という『点』で実績をつくり、それをつないで『面』になれば、フードバリューチェーンができるはずだ」と意気込む。

佐々木社長は「ベトナムでのフー

ドバリューチェーンの普及に重要なのは、現地で生産するためのベトナム人の技術者育成」と言い切る。現状はそこまで質の高い農業機械は必要はないとみているが、「我々が発展に30年かけていたものを5-10年で彼らは進むだろう。だから面白い」と期待を示す。ベトナムで実績ができれば、

ベトナム中部のダナン港からミャンマー・モーラミヤインを道路でつなぐ「東西経済回廊」を生かすなど、東南アジア諸国連合(ASEAN)への展開も見据える。

地域が連携し、海外展開に取り組むという新たな地方創生の形になるか。動向が注目される。

（札幌支局・山岸渉）